

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

高齢心不全患者における歩行リハビリ遅延因子の検討

2. 研究の対象患者

旭中央病院に2017年4月～2018年3月までに入院した心不全患者さんのうち、以下の選択基準を満たし、除外基準のいずれにも該当しない患者さん

- ・選択基準

- 1) 当院入院中にリハビリを実施した患者さん
- 2) 65歳以上の患者さん
- 3) 性別不問

- ・除外基準

- 1) 退院先が自宅以外の患者さん
- 2) 入院前の歩行能力が自立していない患者さん

3. 研究の対象期間

2017年4月1日～2018年3月31日

4. 研究の概要

急性期における入院早期からのリハビリテーション介入、すなわち「早期離床」は、機能回復・在院日数・退院先などの臨床アウトカム改善と関連することが報告されている。さらに、心不全治療の戦略として早期離床の臨床的意義が強く提唱されており、先行研究においては、入院後早期に歩行リハビリを開始することが、その後の心不全増悪イベント発生リスクを低減する可能性が指摘されている。特に入院後3日以内という具体的な介入時期が予後を左右する重要なカットオフ値として示唆されておりシステムティックレビューでは、早期離床が心不全再入院率の有意な減少に寄与し得ることが示唆されている。

一方で早期離床を妨げる要因として、①患者要因(深鎮静/せん妄・意識低下、循環/呼吸の不安定、疼痛・倦怠、肥満)②医療者/組織要因(時間・人員不足、転倒リスク文化、責任不明確、標準プロトコル不足、教育不足)③環境要因(ライン・デバイスの有無、機器不足、病棟環境・体制)など多岐にわたることが示されているものの、診療領域は様々で心不全患者に着目したものはなく、また病床種別はICUのものが主であり一般病床における報告は極めて少ない現状がある。

そこで本研究では高齢心不全入院患者を対象に、入院後3日以内に歩行リハビリが開始できなかった要因を分析することで、是正可能な障壁を抽出し、今後の心不全診療における改善策につなげることを目的とした。

5. 研究実施予定期間

2025年11月19日～2027年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

基本情報:患者属性、社会経済的背景

臨床情報:診断名、疾患の重症度、病期、合併症、治療内容および経過、バイタルサイン、生理学的検査データ、血液生化学的検査データ、生理機能検査データ

リハビリ関連情報:リハビリ内容、身体機能・動作能力評価結果、リハビリ介入期間、リハビリ介入時間
介入遅延理由の調査項目:リハビリ開始介入直前の身体状況(血行動態、ライン/ドレーン、鎮静の有無、意識レベル、せん妄の有無、呼吸器の有無および設定、疼痛の有無および程度、デバイスの有無)、医師からの安静度、入院時入籍病棟、リハビリ開始時入籍病棟、担当リハビリスタッフの経験年数、担当リハビリスタッフの保有資格、入院からリハビリ開始までの日数、リハビリ開始から歩行リハ開始までの日数、入院日の曜日、急性期合併症の有無、担当診療科、離床可否に関するカルテ記載

その他電子カルテから得られるデータを観察項目とする。

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

研究結果(偶発的所見を含む)が研究対象者の健康状態等の評価に確実に利用できると判断される場合に限り、旭中央病院ホームページ上に、研究対象者(又はその代諾者)向けに分かりやすく研究結果(偶発的所見を含む)を公表する。研究対象者(又は代諾者)個々への結果説明は行わない。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

- ・研究責任者：リハビリテーション科 三浦秀之
 - ・臨床研究支援センター
- 電話：0479-63-8111(代)